



社会福祉法人 万松会 延命こども園

園の概要

昭和46年 延命保育園 誕生
 昭和47年 認可
 平成28年 幼保連携型認定こども園 延命こども園へ移行

利用定員

1号認定…25名
 2号認定…80名
 3号認定…45名

在籍数 (H31.1月現在)

1号認定…28名
 2号認定…80名
 3号認定…48名

保育の柱として、保育園の頃から取り組んできた3つのこと

音楽リズム

「音楽を好きになる子どもを育てよう」のテーマの下、合奏・鼓隊・リミックなどを通し、リズム感や表現力などを育む。又、音楽リズムの活動の中で集中力・協調性・達成感などを培う。

絵画活動

「感動を素直に伸び伸びと表現する」感触遊びや色遊びを十分に楽しんだことを基礎に、制作や絵を描くなどの作品につなげている。

異年齢児交流

「好きな遊びを見つけ、十分に楽しむ」「ここにこでー」という自由に遊びを選べる日があり、異年齢で過ごしている。

今までは、子どもの思いを聞きながらも、保育者が進めたいと思う方向に保育を進めていくことが多かった。
 子どもも受身で、考える前に保育者に頼ることが多い。

幼小連携モデル地区
指定研究園となった

教育・保育要領の改訂

私たちの保育に足りない部分は？

研究主題 主体的に活動できる子どもをめざす

主体的に活動するって？

- ・自分の思い、やりたいことが伝えられる。
- ・友だちなどの意見を聞いて、次の行動に生かすことができる。
- ・困った時や、何か問題にぶつかった時に、試行錯誤する中で自分なりの解決策を見つけようとする。

保育の充実のために

3歳未満児保育

- ・担当制保育
保育室の環境づくり
保育の進め方
食事の環境づくり
おもちゃの選び方



- ・絵画活動(感触遊び)
色水・寒天・小麦粉粘土
フィンガーペインティング

- ・音楽リズム
手あそび
わらべ歌

3歳以上児保育

- ・音楽リズム
合奏・鼓隊・和太鼓
リミック・歌唱

- ・絵画活動
共同制作・感触遊び
生活やお話の絵

- ・異年齢交流
お店屋さんごっこ
ここにこデー

- ・運動遊び
マット・鉄棒・プール
縄跳び・ボール遊び

- ・えいごであそぼう
簡単な英語での
会話やゲーム

- ・野菜などの栽培
きゅうり・パプリカ
朝顔・ひまわり・米

・赤字は、外部講師に指導を受けているもの

- ・どの活動にも計画・目標が必要であり、全職員に周知すること。
- ・反省は目標が達成できたかについて振り返る。

成果

- ・子どもたちが自分の意見を自分から発表したり、伝えたり出来ることが増えてきた。
- ・少しずつではあるが、保育に対する意識が変わってきた。
 - ・一人一人の発達や特性に合わせ、丁寧に関わる
 - ・生活や活動の見通しをもたせることの大切さ。
 - ・他園の公開保育や、小学校の公開授業を見て、自園の保育を振り返ることができた。

課題

- ・ふりかえりの場をもち、子どもたち同士で考えて次の活動に繋がる援助ができるように、言葉かけや進め方の工夫が必要。
- ・保育や行事の計画は細かく立てているが、進め方や流れに重点を置いてしまっているため、目標が達成できたかどうかを必ず反省する。



園の概要と昨年度までの取り組み

本園は、平成25年にびわこ学院大学附属の認定こども園として布引学区に開設した。布引学区はもちろんのこと、旧八日市地区多数の学区に加え、隣接する蒲生地区や湖東地区と広域に渡る家庭の子どもが在籍している。また、0歳児から5歳児の単学級（0歳児3名・1歳児7名・2歳児13名・3歳児21名・4歳児19名・5歳児23名）で、1・2・3号認定児が生活を共にしており、保育ニーズは多様である。それぞれの家庭のニーズにできる限り寄り添うために、1年目から日々の保育の振り返りや、学年の壁を越えて園全体で全ての子どもを全ての職員で育てていくための協議を重ねてきた。園内研究会では、各クラスの実践事例を持ち寄り保育者の関わりや環境構成のあり方を話し合ってきたが、昨年度末、研究主任を中心に園内研究会のあり方がこれだけいいのかを見つめ直し、あっぷるの特性や特徴を活かして子どもの育ちを見取り、成果を残そうと考えた。

教育・保育要領の改訂

各クラスのリーダーが集まって…

- ・全体的な計画の見直し
- ・年間計画の見直し

乳児会議・幼児会議で…

- ・周知徹底
- ・月案、週案の作成

そこです…

全職員が集まって子どもの現状と課題を話し合う。

＜研究主題＞

【保育者や友達と温かいつながりをもち、安定した情緒の中で自信を持って自分の力を発揮できる子をめざして】
～子どもが安心して主体的に遊びだせる環境のあり方を考える～

研究の仮説

1. ありのままの自分を受け止めてもらえる保育者の存在があることで、自信や満足感を持ち安心して遊ぶことができるのではないか。(自立心)
2. 子どもの発達段階に合わせた環境を整えたり教材を工夫したりすることで、「やってみよう」と心が動き、気づき考え工夫するなど自分達でイメージし、主体的に遊ぶことができるのではないか。(思考力の芽生え・豊かな感性と表現)
3. 子どもが主体的に遊ぶことで、自らが満足し、友達と関わったり共同したりする姿へつながるのではないか。(協同性・言葉による伝え合い)

研究の内容と方法

「研究主題に基づく保育者の関わり方と子どもの内面理解を深める」
幼児事例研究を通して、子どもの自立心を育む保育者の関わり方や子どもの姿を仮説に分類して内面理解を深める。
「子どもが遊びだしたくなる環境のあり方を探る」
公開保育を通して、提供した環境が子どもの興味や発達に合っていたか、またその環境により思考力の芽生えや豊かな感性と表現につながったかを見つめ直す。
「乳児期の愛着関係を醸成させる」
抽出した子どもと保育者との1年間の愛着関係の変化を追う。

公開保育や事例の協議をどう進行すれば？

研究を進めるにあたって

全員が気づきを発言できる場にするには??

PDCAサイクルによる園内研究の進め方

「東近江市保育力アップ研修講座」に参加した研究主任の学び

保育相談力を高める対話の方法

研究テーマの具体化・分類の仕方

多様な見方

成果の見える化

付箋を使ったアクティブラーニングの実践

学びを活かして実践

分類したテーマに沿った子どもの姿への気づきを伝え合う

子どもの姿を読み取る視点にテーマを分類

グループ協議を全体に発表

乳児の愛着関係の変化を追う

公開保育

キーワードを探る

成果と課題

- ★研究主任が市の主催する研修に参加することで、具体的な園内研究会の実践法を学び園内研究会に活用することができた。参加した全ての保育者がそれぞれの考えを発言するという活気のあるものとなった研究協議では、テーマごとに子どもの姿を読み取り、学年ごとのキーワードが明確化するという成果が得られた。
- ★今年度の学びを各学年の年間計画に反映し、明確化されたキーワードを元に更なる学びを深め、各クラスの保育を長期的に見つめていくためには、研究主任のスキルアップが今後の課題である。



社会福祉法人 萱野会 ゆいの杜こども園

『ゆいの杜こども園』は、平成30年4月に開園した幼保連携型認定こども園である。36年続いた「いちのべ保育園」の保育を引き継ぎ、「人とかわり、自然とかわり、豊かなところで生きる力を育てる」を柱に家庭的な保育を心がけている。

新園舎建設を機に、3年前から保育の中心に食育を据えて、設備と保育の両面から食環境についての研究を進めてきた。

これまでの園内研修は主任保育士が担当してきたが、今年度からは更に研究主任を配置し、主幹保育教諭と連携して進めたことで、より円滑に園内研修に取り組めるようになった。

＜園の概要＞ 園児数…0歳児：8名 1歳児：18名 2歳児：19名 3歳児：25名 4歳児：25名 5歳児：25名（定員120名）

＜研究主題＞ 「よく遊び、おいしく食べる子どもをめざして ～食を意識できる保育環境を考える～」

＜仮説＞

- ・園の食事環境を家庭に近づければ、家庭と連携をとりながら共に食育をすすめることができ、より子どもたちの食への関心を高め、心身の育ちを支えることができるのではないかな。
- ・園全体で食を中心に保育を進めることを意識することで、子どもがよく遊び、おいしく食べ、より主体的に関わることができるのではないかな。

＜内容・方法 ⇒ 実践＞

食育実践計画の作成

食育計画とは別に、各クラスから食育の実践計画を集めてまとめる。

園で一本化し、共有できるようにした。

他クラスがどのようなことをしているかを知るきっかけとなり、園全体での食育の実践を知ることができた。また、この時期にどんなことをしていたのかなどを知ることで、次年度へもつなげていくことができると考える。

- 栽培活動・調理体験
 - 保護者も含め、行事と連携した食育指導
 - 昼食の試食・レシピ配布
 - エピソードあつめ
- 職員一人一人から食育に関するエピソードや、食に関して気になることなどを学期ごとに集める。

食環境の見直し

食事の場所や子どもの動線などを考え園舎の設計に反映した。

今年度、新園舎に移り、環境や生活の中で良くなった点と課題点を職員全員から集め、付箋に書き出して共有する。また、その課題点に対する改善の仕方をグループごとに検討した。

事前に研修の議題や進め方などのレジュメを作り、付箋と一緒に配布した。事前に考えをまとめることで意見を出しやすいように工夫した。当日の流れを理解した上で意見を考えておくことができ、全員で活発に意見を出し合えた。そのため、課題に対する討議の時間を多く設けることができ、時間を有効に使えた。

- 栄養士などの職種を越えた研修をする。

いつもの保育を見直そう

食事の一場面の図を見て、あたりまえになっていて気づいていない習慣やその理由なども考えて話し合い、自分たちの保育現場とも照らし合わせる。

図を見て意見を出し合う。率直な意見を求めて、その場で付箋に書き込み、図の気になった場所へ貼り付けていく形をとった。日頃自分たちも保育の中でしていることに目を向けてみんなで話し合うことで、気づきや保育を見直すきっかけとなるようにした。また、その視点をクラスの公開保育へとつなげ、日頃の保育の様子や環境を見ることで、あたりまえにしてきたことを見直し、改善していけるように意見を出し合った。

意見を付箋に書き、貼りだしていく。

分類わけや書き込みなどをし、見た目にもわかりやすくまとめる。

グループに分かれての討議は、メンバーも議題や内容により配慮する。



食育についての研修のため、キッチン(給食)の職員も一緒に研修に参加し、意見を出し合った。

＜成果と課題＞

- ・園全体で食育の研究に取り組み、育ちにあわせて環境(食事の場所や動線)や活動(栽培や調理体験)を意識することで子どもたちの食への関心も高まった。また、保護者も含めた食育指導や園の昼食の試食、レシピ配布などで家庭とも連携して子どもの食について考えることができた。
- ・この食育研究をすすめる中で、今後は体づくりのため、食と共に運動遊びの環境を見直していけるよう研究を深めたい。
- ・園内研修では、研究主任が学びを活かしリードして進めたことで時間を有効に使うことができ、全職員から活発に意見を出せた。
- ・保育者が学び感じたことを食の環境や活動に活かし、子どもと保育をもっと見ようとする意識がもてたことで子ども理解につながり、子どもの主体的な遊びや活動へと広がってきた。今後の園内研修は研究主任がリードして継続的に取り組んでいくと共に、グループでの研究や討議に活躍できるミドルリーダー的立場の職員の育成にもつなげ、研修の充実を図りたい。

【研究主題】

すべてのこどものために

～ 気になる子どもの支えから誰もが過ごしやすい環境づくりへ～



学校法人 ヴォーリス学園
Vories Gakuen

そのの鳥こども園

東近江市種町2120

施設類型：幼保連携型認定こども園

0歳児11名 1歳児22名 2歳児23名

3歳児30名 4歳児32名 5歳児26名

在籍数 合計144名



本園は2017年4月より幼保連携型認定こども園として開園し、現在運営2年目である。イエス・キリストを模範とする人間教育を通して、子ども一人一人を大切に、その賜物（個性）を大切に育て、「地の塩・世の光」となる子どもを育成することを教育・保育方針とし、キリスト教保育を行っている。

運営2年目に入り、教育・保育の地固めに取り組むことを計画し、その一つの方法として職員が日ごろの保育で直面し悩んでいる「気になる子どもの姿」を取り上げ、園全体で共通理解をして、その子どもの育ちを支えることを目的に園内研修を行うこととした。また、この研修を通して学びあう「気になる子どもを支える手立て・環境づくり」が、「誰もが分かりやすく過ごしやすい環境づくり」につながり、すべての子どものよりよい育ちにつながると考えて取組を重ねている。

研究内容と方法

気になる子どもの事例を挙げ、今どんな力が育ってきており、どういったアプローチが必要か、次にどんな姿を育てていきたいか意見を出し合い、検討する。またそこで得た視点やアプローチを実践に生かす。

うちのクラスの
子どもにも当て
はまるかも

この姿にはこんな成長が
隠れているんだ！

どんな力が育っ
てきているのかな

わたしだったら
どうするだろう



研究主任の役割

幼児教育センターの研修を受けた研究主任が、現在の園の課題や職員の困り感をもとにテーマを考え、軸になって会を進めている。

研究主任はセンターの研修において、1つのテーマを持って、そのことについて職員一人一人が意識を持ち、保育実践を行うことの大切さについて学んでおり、このことも念頭におきながら、会の運営内容を検討している。

成果と今後の課題

担当保育者が日頃子どもと向き合う中で、悩んでいることや行き詰っていることなどを出すことができた。担当する子どもの姿を研修の中でわかるように伝えることでとらえている子どもの姿が整理できたりしている。また、客観的に子どもの姿を見ている他の保育者からのアドバイスや意見から、担当自身が見えなくなっていることや気づけていないことに気づき、子どもを多面的にとらえることもできている。また、多くの職員と共有する中でケースに挙げた子どもの姿が客観化・抽象化され、他の園児に対しての見方やアプローチにも活用しやすくなっている。

研修方法も、グループに分かれて話し合う機会を作るなど形を変えることで、発言しやすい雰囲気を作られ、若手職員の気づきや学びを生かすことができている。

そういった成果から、個々のケースで挙げた園児のためだけのアプローチとしてではなく、どの子にも生かし、みんなが過ごしやすい環境づくりとは何かということを中心に考えて、今後は大学等から外部講師を招くなども実施し、ユニバーサルデザインの保育づくりに取り組んでいきたい。



八日市めぐみ 保育園

研究主題 「絵本の読みあい活動 から広がる遊び」

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 5歳児 | 24名 | 2歳児 | 16名 |
| 4歳児 | 23名 | 1歳児 | 13名 |
| 3歳児 | 22名 | 0歳児 | 11名 |

新保育所保育指針に「絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。」とあるように、子どもが絵本や物語で親しんだことから遊びや表現することへと展開する保育実践「読みあい活動から広がる遊び」で子どもたちの何が育つのかを研究する。



「ぐりとぐら」
作・中川 李枝子
絵・大村 百合子



動物になって食べに行くよ。お面制作中！



LaQで動物やカステラ、ぐりとぐらなど、絵本を見ながら、自分たちで工夫して作ります。



ピーナッツバター、マーマレード、たんぼぼ、クローバ、バセリとセロリ、パンにはさんでぐりとぐらサンド



カッパになるための甲羅作り。こんなに素敵な甲羅が出来上がりました。



「おつきよちゃんとかっぱ」
文・長谷川 撫子
絵・降矢 奈々



ここはカッパの隠れ家。沢山のカッパたちがやって来てひそひそと何かが行われています。



カッパの大好物といえば、きゅうり！収穫できたら、かっぱ巻きを作ろう。



保育創造セミナー代表 樋口正春先生に保育の様子をビデオで撮っていただき、見ながら自分たちの保育の振り返りと学びの時を持つ。



大人気のお店「はちみつやさん」。ホットケーキを頼むと好きなはちみつを選んでかけてもらえます。1番人気は「クローバーのはちみつ」。

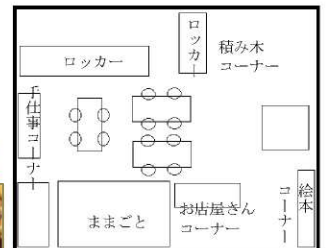


首元にバンダナを巻いて、うさぎの耳がついた帽子を被ったかわいい店員さんがお弁当を販売しています。



「ぎょうれつのできる はちみつやさん」
作・ふくざゆみこ

絵本を見ながら制作中！



◎絵本遊びを展開するための保育室の環境

| 項目 | 内容 |
|-------------|---|
| 1. 月ごとの指導計画 | 「はちみつやさん」のホットケーキの作り方を再現し、遊びに必要なものを何で作ると良いかを考えるという、自分の生活や経験と重ねあわせ工夫する姿や、他の人(友だち)の想いや考えの違いを知ることにより、話し合っ |
| 2. 日々の活動 | 「はちみつやさん」のホットケーキの作り方を再現し、遊びに必要なものを何で作ると良いかを考えるという、自分の生活や経験と重ねあわせ工夫する姿や、他の人(友だち)の想いや考えの違いを知ることにより、話し合っ |
| 3. 評価 | 「はちみつやさん」のホットケーキの作り方を再現し、遊びに必要なものを何で作ると良いかを考えるという、自分の生活や経験と重ねあわせ工夫する姿や、他の人(友だち)の想いや考えの違いを知ることにより、話し合っ |

絵本
「はちみつやさん」のホットケーキの作り方を再現し、遊びに必要なものを何で作ると良いかを考えるという、自分の生活や経験と重ねあわせ工夫する姿や、他の人(友だち)の想いや考えの違いを知ることにより、話し合っ

月の指導計画には今月の絵本と保育への展開を記入。

研修リーダーを中心に、絵本の選出や、どのように遊びに展開するかを話し合い、絵本の指導計画を立てる。



この実践から、例えばホットケーキの作り方の再現や、遊びに必要なものを何で作ると良いかを考えるという、自分の生活や経験と重ねあわせ工夫する姿や、他の人(友だち)の想いや考えの違いを知ることにより、話し合っ



丈夫な身体づくりと豊かな人間性を養う

社会福祉法人 睦美会 むつみ保育園

園の概要

国道421号線沿いで旧八日市市内の中心部に位置し、交通の弁がよく立地条件に恵まれている。定員90名、6クラス（0歳児6名、1歳児11名、2歳児15名、3歳児16名、4歳児22名、5歳児19名）で保育を行っている。乳幼児クラス（0～2歳児）では、担当制保育を行い、家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの丁寧な関わりを大切にしながら信頼関係を築き、安心して過ごせるように心掛けている。悪天候でない日は、戸外活動を中心に遊び体力作りに励んでいる。リトミックや体操教室等の活動や図書館のお話会に参加して本を借りる等、様々な体験を通して豊かな感性を養っている。

研究主題

「先生や友だちと主体的に取り組める運動会を作ろう」

子どもの実態

市内の中心部にあり、車での送迎がほとんどで体力の低下が心配されるようになり、戸外遊びや散歩等で足腰を鍛え、体力作りに取り組んでいる。運動会においても、日頃の体力作りの取り組みを発揮する場であるが、保育者主導であり子ども達は受け身になってしまっている。

子ども達が主体的に取り組める運動会にするにはどうしたらいいのか見直しをする事になったが、どう見直していくべきか意見はでたがまとまらなかった。幼児教育センターの園内研の進め方の研修を受けた事から、研究主任の学びがあり、運動会に対する取組の課題が明確になった。

<運動会のねらい>

自信と勇気を持って元気いっぱい笑顔で絆
～友だちと一緒に頑張ろう～



仮説

- ① 子ども達自身が考え工夫する事で、これまで以上に達成感や自信を感じられるのではないかと。
- ② クラスの友だちや異年齢児との関わりの中で共に育ちあえるのではないかと。

研究内容と方法

- ・5歳児を中心に話し合いの場を持ち、子ども自身の考えや友だちとの会話から育ちを見つけていく。
- ・異年齢交流を通して、互いに成長し合う姿を見守り記録をとっておく。



<友だちと話し合い>

去年は何したっけ

去年度の振り返りを友だちとし自分なりの目標を持つ

跳び箱頑張りたいな



<目標を壁面に飾りました>

運動会に必要な物を友だちと製作する

<横断幕作り>

うんどうかい



友だちとみんなと一緒に頑張るには？

友だちとの繋がりを意識しながら役割分担を考える

ゴールテープを持ち、マットを運べる



赤ちゃんのお手伝いする



役割分担表



異年齢児との取り組みにむけて

<乳児との親子競技練習>



抱っこされるの恥ずかしかった。



楽しかった！！

運動会当日



一人一人が成長し、力を発揮できました！



○研究の成果と今後の課題

今回の取り組みによって、運動会のねらいやめあてに沿い、子ども達が期待感も大きく充実した運動会が行えた。5歳児は自信や達成感を持つことができ、異年齢児も一つ一つの競技にのびのび安心して取り組む姿が見られた。

運動会後の姿

- ・子ども同士で声を掛け合って遊びを展開するようになる。(ルールを決める・分からない事を教え合う)
- ・いつも以上に異年齢児と関わりが増えた。自分たちから「靴の脱ぎ履き」「園庭まで手を繋いで送迎」のお手伝いをする。
- ・お店屋さんごっこでの取組(年下の子を招待・お店作りを自分たちで進める。)

今後の課題

- ・主体的な活動についての学びが得られたが、意見を言える子、言えない子の差が大きい。少人数の中で意見を伝えられるようになる等の課題が見られた。
- ・今回は「運動会」を通しての取組であったが、園の保育目標の「丈夫な身体づくり」を日常の保育の取組へ繋げていけるよう、園全体で考えていく。

社会福祉法人 春日福祉会 かすが保育園



かすが保育園は春日神社の杜と愛東地区の豊かな田園風景に囲まれた定員60名の保育園である。

小規模園であるため、幼児クラス・乳児クラスといった研修体制をとることにし、副主任が研究主任を兼務することで園内研修の中心となり進めている。

＜保育目標から日常の保育を考える＞

自然に恵まれた環境を保育に活かしているか、また健康に繋がっているのだろうか。子ども達の姿から考察する。



3歳クラスでのトマト栽培
「食べられそうな大きさはどれかな？」
苦手でも自分で選んで食べようとする姿

＜かすが保育園保育目標＞

- ・自然と親しみ健康で明るい子ども
- ・思いやりを持った心温かい子ども
- ・じっくり遊びよく考えて自分から行動したり表現できる子ども
- ・人と物とに感謝できる子ども



自然の中で思い切り遊び、すっきりした顔で「お腹すいた！」とても大切な言葉！

＜小テーマを設定し意見を出し合っていく＞

- ・自然と親しむとは？かすががでできる事って？
- ・健康に繋がっているだろうか？
- ・明るい子どもに育ってきているだろうか？
- ・“自然と親しみ健康で明るい子ども”の先に…

「園庭でこけたら痛いけど田んぼは痛くない！」
鬼ごっこ活発に！！

＜子どもの姿＞

- ・山登りや未整地で体を使って遊ぶことで体幹や足腰、バランス力が鍛えられる。食欲、睡眠にも繋がり生活リズムが身についてきた。
- ・畑での収穫や農道での虫つかみを通して、生き物を大切にする心が育ってきた。
- ・境内地や農道散歩で自然の変化を友達と体験できることに共感し、喜び合える。
- ・異年齢間の交流が増え、様々な刺激を受ける中で人間関係が育ってきた。

＜保育＞

- ・互いの意見を聞き、子どもへの理解が多様化し柔軟な考え方が身についてきた。
- ・日々の保育が流れてしまわず、一つ一つの事象について考えようとしていたり、気づきが増えている。

＜成果と課題＞

子どもの自然な遊びを拾えたことから各年齢の育ちを見つめ直し学びに繋がる機会となった。

「また行きたい。もう一回行きたい！」が叶う、日々変化するが繰り返して遊び込める園周辺の自然環境の素晴らしさを再確認できた。

今後は我園ならではの様々な環境を今以上に活用していく方法を考えたり、子どもの心・体の育ちとの関係性について深めていこうと話し合えた。

研修内容は副主任が幼児教育センターの研究主任研修での学びを活かし、資料や道具を用意し進めていくことができた。中心となり進めることで参加しやすいよう会議の内容を工夫でき、全員が意見を出しやすい雰囲気にも繋がった。しかし意見がたくさん出る中で、研究主任は議題がぶれてしまわないよう年齢毎の成長・違いに焦点を当てて話したり、具体例を挙げてもらうよう促す等配慮が必要であると感じた。



社会福祉法人 阿育会 ふたば保育園

| 年齢 | クラス名 | 在籍 |
|-------------|------|------|
| 0歳児 | ひよこ | 15 |
| 1歳児 | もも | 15 |
| 1,2歳児 | さくら | 10,8 |
| 2歳児 | たんぽぽ | 17 |
| 3歳児 | きく | 19 |
| 3歳児 | ゆり | 19 |
| 4歳児 | ばら | 21 |
| 4歳児 | あきがお | 21 |
| 5歳児 | ひまわり | 21 |
| 5歳児 | こずもす | 22 |
| 2018.12.1現在 | | 188 |

- 子どもが自分を大切に、さまざまな人と豊かにかかわりながら、自分らしく、根っこの力を育てていきます。
- 一人一人を大切にしながら、愛情いっぱいの保育を、日々行っています。

「一人一人を大切にする保育」の実践

自分を大切に、人と豊かにかかわり、自分らしく生きる。

めざす子どもの姿

周囲の人に自分からかわり、ともに生活をよくしていこうとする子どもをめざす。



育んでいきたい心
 「先生大好き」
 「自分で遊ぶの大好き」
 「友だち大好き」「一緒に楽しい」
 「生きているっていいね」



わくわく！

- ・自分の思いをもって自分らしく生きる。
- ・周囲の人とともに生きる。
- ・自己肯定感をもつことができる。

どきどき！

やった～！！

「大好きだよ」
 「できたね」
 「ありがとう」
 「いつも見ているよ」

子どもへのメッセージ

- つけない力(学びに向か)
1. 伝える力・聞く力
 2. 集中して取り組む力
 3. 良い人間関係をつくる力
 4. ルールを理解し守る力
 5. 豊かに感じる力

子どもと視線を合わせてから話をする。

言葉を手渡す

子どもの人権を大切に



(園内研修)取組

平成30年度 園内研修テーマ 自然の中で人とふれあい思いやりの心を育むための保育を実践する。

身の回りには不思議がいっぱい…知的好奇心

何だろう。⇒おもしろそう。⇒やってみよう。⇒できた。やったあ。⇒おもしろそう。⇒困った。⇒もう1回やってみよう。⇒もっとやってみよう。

毎日、自然に触れて遊ぶ中で、子どもたちの気づきに、保育者がどれだけ気づき、思いを寄せているだろうか。子どもの「おもしろそう、やってみようかな」の思いに、どんな環境が必要なのか。どんな声かけがよいのか。みんなで考えていきたい。遊び込めると、自己充実し、人と関わったり、自然物に感動したり、思いやりの心を育むことができるのではないだろうか。



園内研修計画

研究主任の研修によって主題を絞り込むことを学んだ。

H30.3 テーマ設定 園長、主任、研修担当。

4 園内研修の提示。

6～ 10クラスを公開し他のクラスの保育をみる機会。

★事前研修クラスリーダー会で公開クラスの悩みや思いを共有する。

↓
★資料配布

↓
★公開保育(1週間)

↓
★研修日当日…3グループに分かれ「子どもの姿」「保育の関わり」「環境」「課題」を出し合い、付箋に書いて話し合いを深める。



外部講師を招聘し、研修の機会を持つ。

■乳児研修

◎新井先生。(年2回)

* 乳児保育の大切さ。

■幼児研修

◎本田先生。(年1回) * 絵本の世界で遊ぶ楽しさ。

知的好奇心をもって自分なりに楽しく遊べたか。

市幼児教育センター研修で習った協議で付箋を使って深めることを活用した。

★まとめの配布..付箋を貼った表を写真に撮って各クラスへ配布。そのことによって他グループの意見を再確認する。(短時間保育者にも知らせていく。)

【今後の課題として】

- ▼次年度テーマを早めに設定し、園内研修の柱を作成する。
- ▼園内研修が楽しいと思えるような進め方を工夫していく。



八宮保育園

園の概要

本園は東近江市の北東部に位置し、周辺には自然豊かな田園が広がっている。近くには八宮赤山神社の鎮守の森があり、大きな木の恵みと四季の移り変わりを感じることができ、自然環境に恵まれている。また、園全体で食育に取り組み、大きな菜園があり、季節ごとの野菜の生長を見たり栽培や収穫したりすること、それを使ってクッキングをしたり自園給食で食べることにより、食べ物に感謝する気持ちをもつことができるようになっていく。

平成24年度に開園し今年で7年目を迎える。

| | |
|------|------|
| 0歳児 | 13名 |
| 1歳児 | 23名 |
| 2歳児 | 25名 |
| 3歳児 | 28名 |
| 4歳児 | 28名 |
| 5歳児 | 27名 |
| 6クラス | 144名 |

研究主題

『できた！ 楽しんでのびのびと体を動かし遊べる子ども』

研究の仮説

- 仮説1 ・日々の遊びや生活の中で、一人一人が「やってみたい」「おもしろそうだな」「もう1回やってみたい」と思わず体を動かして遊びたいような環境や年齢に応じた運動遊びの場を設定することで、自分から動き出し遊びを楽しむようになるのではないか。また、そうすることで、多様な動きを身につけていけるのではないか。
- 仮説2 ・発達過程を見通し、安心できる保育者と一緒に繰り返し遊ぶ中で、個々に寄り添った援助をすることで、子どもたちが安心して自己発揮し、自らやってみようとする気持ちが芽生えるのではないか。
- 仮説3 ・「できた！」「やったー！」という満足感や達成感を積み重ねることで、体力面や心情面が充実し、自ら挑戦したり、友達との関わりを求めたりする姿が見られるようになり、遊びや生活への意欲が高まっていくのではないか。

研究の内容と方法

- ・各年齢の子どもの実態を把握し、発達段階に応じた環境・援助の充実に努力し、子どもの変容について検証する。
- ・研究保育を通して、子どもの行動を観察し考察・分析することにより子ども理解を深める。
- ・日々の保育を振り返りながら、子どもの心の動きや気持ちの高まりに着目し事例研究を実施する。

幼児教育センターからの学び

園内研究をどのように計画するのか、また園内研究を進めていく中で子どもをみる視点や記録のとり方、園内研究をする意味を学ぶことができました。園内研究は自分を磨こうとする場であり、人を育てる場！子どもたちが遊び込む中で「できた！」をたくさん発見できるように遊びの充実に目指して園内研究に取り組んでいます。

研究をより深めるために

- ・公開保育 年3回実施

指導

びわこ学院大学 杉本栄子先生

- ・事例研究 年3回実施
- ・職員会議
- ・以上児会議、未満児会議
- ・巡回相談、発達相談



公開保育のあと意見交換をし、保育の理解を深めています



公開保育の中で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目が見られたらチェックをしていくことで、子どもの育ちを理解できる。

